

海外拠点において適切に IT 環境を構築するために

盤石なITインフラと その運用体制確立を短期間に実現

企業のグローバル展開が加速する中、海外拠点においてもITを最大限に活用することが求められています。しかし、その国の風土やビジネス環境に合わせて最適なIT環境を構築することは決して容易なことではありません。また拠点開設準備においては、IT構築に携わるスタッフの数も限られています。現在タイにおいて新しい銀行の開設準備を進めている三井住友信託銀行は、どのような考え方や手法で数多くの課題を克服したのでしょうか。

日本水準のセキュリティや障害対策を 有するIT環境をタイで構築することが ミッション

三井住友信託銀行株式会社は、信託の受託者精神に立脚し、高度な専門性と総合力を駆使して、銀行事業・資産運用・管理事業・不動産事業を融合した新しいビジネスモデルで独自の価値を創出している三井住友トラストグループの中核として事業を展開。現在、国内146カ所、海外10カ所に拠点を開設しています。

海外展開においては、成長めざましい東南アジアの中でも特に経済発展が期待できるタイのバンコクに泰国三井住友信託銀行を2015年秋に開業。日系企業をはじめとする顧客に、ファイナンス業務やグループとして培ってきた信託銀行ならではのサービスを提供しています。

泰国三井住友信託銀行のIT環境整備を統括した谷充弘氏は、現地におけるIT構築の使命や要件を次のように総括します。

「小規模ながらも銀行としての本店機能を有することから、盤石な運用体制を構築する必要がありました。そのためには、セキュリティにおいても、システム障害対策においても、日本と同等の水準を実現しなければなりません。タイは日



泰国三井住友信託銀行
IT統括部長
谷 充弘氏

本同様、水害などの自然災害が多い国であり、万一の災害にも対応できる実効性の高い対策が不可欠です。また、人の動きが取れないような事態に陥っても、情報が適切に連携される仕組みを構築する必要があったのです」

このような高水準のIT環境を設立認可後1年半という短期間で構築しなければならないという厳しい条件でありながら、IT要員の人数は限定されていました。谷氏は「小さな所帯でIT基盤をしっかりと運用していくためには、信頼できる外部のサービスを早い段階から有効に活用することが不可欠でした」と振り返ります。

IT関連情報の不足や 言語の壁が立ちほだかる

三井住友トラストグループでは、従来からバンコクに駐在事務所を開設していますが、銀行本店を設立するのは初めてのことであり、IT基盤を構築するにあたってさまざまな課題を克服する必要があったと言います。

「大きく捉えると、先に述べたIT要員の不足に加え、IT関連の専門情報の不足と言葉の壁が挙げられます。例えば、こちらのエンジニアがどのような水準にあり、どのような手法で作業を行うのか、といった情報がまったく得られていませんでした。また、我々設立スタッフは、海外勤務の経験は豊富であるものの、皆ほとんどタイ語は話せません。現地当局(Bank of Thailand)からの通達もサマリー以外はすべてタイ語であり、翻訳に加え、その翻訳が適切であるかを検証することにも相当な労力を要しました。もちろん、苦労したのは我々だけでなく、17年ぶりに外国銀行免許発行を行うという当局側にも、かなりの苦労が

あったことは想像に難くありません」(谷氏)

こうした環境にあっては、経験豊かなパートナーの存在がますます重要なものとなりますが、どのような基準や判断材料でパートナーを選択したのでしょうか。

複数サービスを統括提供できる パートナーの選定

設備水準、立地、運用体制などを総合的に判断し、NTTコミュニケーションズが提供するデータセンターの採用を決めました。

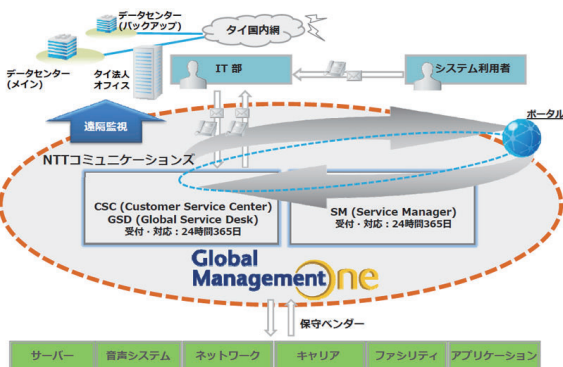
「災害対策を十分考慮した立地、ネットワークの冗長化を実現する上で必須な回線キャリアに対する中立的な姿勢、24時間監視運営を含むグローバル水準の設備サービスが採用の鍵となりました」(谷氏)

また次にオフィスとデータセンター、更にはタイ国内のネットワーク構成を検討。指定された専用回線や各種サーバー機器を要する当局システムなど、多種多様な要件を実現する上でも回線やサーバーの提供元に関わらない総合的な運用監視サービスを同時に検討する必要があったと言います。

「銀行本体の生命線となるIT基盤の安定運営には、絶え間ない情報収集とレベルアップ可能なIT基盤戦力の十分な確保が大切だが、IT要員数の制約と日本に比べ離職率の高い当地事情を勘案すると、自社戦力で安定的に実現することは不可能だった。これを補うために外部戦力の大胆な活用を検討する中で、NTTコミュニケーションズから『[Global ManagementOne\(以下GMOne\)](#)』の提案を受けたのです」(谷氏)

データセンターとネットワーク、そしてサーバー機器と共に、統合的に管理することが必要だと考えており、「GMOne」を中心として運用サービスをワンストップで提供可能であることが、NTTコミュニケーションズをパートナーに選択した決め手であったと言います。

泰国三井住友信託銀行が構築するIT基盤



真摯に取り組む姿勢を評価 サポート体制と信頼関係の確立

泰国三井住友信託銀行のIT環境の構築において、先に挙げたさまざまな課題はほぼ克服されたと言います。谷氏は、その鍵となった取組姿勢などに言及します。

「開業準備においてはタイにおいても一つ一つの課題に対して関係者がどれだけ真摯に向き合うかという姿勢が重要でした。またそのために、良くない情報こそ迅速に共有し、コミュニケーションを通じて相互理解に努めることが、日本とタイ、当社と協力各社を超えて信頼を構築する上で大事なポイントでした」と、現地当局との関係を振り返ります。



泰国三井住友信託銀行
IT担当
田中 健児氏

さらに、「開業後の今は、IT基盤の監視、稼働状況などの一元管理、問題発生時の対応要請を含むインシデント管理、そして解決を促進するエスカレーション管理、GMOneがこれらの要となることで、各ベンダー間で迅速な直接コミュニケーションが維持できています」(谷氏)と、運用状況について話します。

同行の田中健児氏は、「数々の問い合わせや要望に対し、サービスの範囲を超えるような内容においても熱心に対応し、最適な解決法を提案してくれました。また、エンジニアの皆さんの正確で丁寧な作業には、厚い信頼を寄せています。このような人たちに支えられたからこそ、多くの障壁を乗り越えられたのだらうと思っています」と、語ります。

谷氏はNTTコミュニケーションズに対し、今後も基盤構築からシステムの運用、保守管理までを実質的に支える役割を期待していると言います。そして、海外進出を計画している他社への助言で話を結びました。

「早い段階で現地に信頼できるパートナーを見つけることが重要だと思います。現地での経験が豊富な信頼できる企業をパートナーとして選択することをお勧めします」

泰国三井住友信託銀行は無事開業し、日系企業や現地企業にさまざまな金融サービスの提供をスタートしました。今回導入されたデータセンターやこれを支える総合運用サービスが、今後の業務展開も万全に支えていくことが期待されています。

※掲載されている内容は公開日時点のものです。

※掲載されているサービスの名称、内容及び条件は、改善などのために予告なく変更することがあります。